

次世代に選ばれる「しあわせ先進モデルふくい」の実現

福井県（2021年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標

福井県は、豊かな自然に恵まれ、悠久の歴史・文化が積み重なり、家族や地域社会のつながりが残され、子育て・教育や産業・雇用の充実した基盤が受け継がれる“日本のふるさと”とも言える地域である。

一方で、若者の大都市圏への流出による人手不足や、地域コミュニティの維持、多様な価値観を認める寛容性の醸成、自然環境や独自の文化の保全などが課題となっている。

福井の良さに磨きをかけて次世代に継承しながら、立地条件の飛躍的な向上を活かして、人々を強く惹きつける価値を創造する。誰もが安心して豊かな暮らしを楽しむ姿が、たくさんの人を呼び込み、地域がにぎわい、それがまた県民の誇りにつながる。そうした**好循環が生まれる「しあわせ先進モデル」を県民の力を集結して確立**していく。

2. 関連するゴール



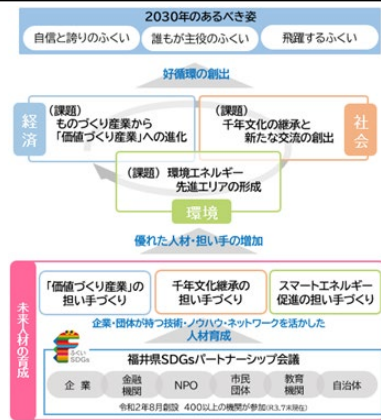
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)

日本一と評される教育力や長い歴史の中で培われてきたものづくりの技術を活かしながら、**官民一体となって「福井の未来を担う次世代の育成」のための取組みを推進**することにより、経済・社会・環境の好循環を生み出し、持続可能な地域を実現する。

4. 自治体SDGs推進等に向けた取組

・登録制度を通じて「福井県SDGsパートナーシップ会議」に参画する企業や団体の取組みを見える化することで、県民のSDGsへの意識を高め、行動実践を促すため、福井県独自のSDGs月間を実施

・パートナーシップ会議に参画する企業・団体と連携して作成した人材育成プログラムについては、引き続き実践しているほか、環境の側面で新たなプログラムを作成・実施



5. 取組推進の工夫

・「福井県SDGsパートナーシップ会議」には、県内市町も全て参画。県全体としてSDGsを推進する体制をつくっている。また、パートナーシップ会議に参画する金融機関等が、関わりのある企業・団体等に参画を呼び掛けているなど、県主導だけでなく参画機関の主体的な取り組みによる推進の輪が広がっている。

6. 取組成果

【KPIの達成状況】

・経済・社会・環境の三側面の取組みを進めた結果、県民所得等経済分野の指標は順調に推移しているが、中には当初値を下回る指標もあり、取組み強化の必要がある

【自律的好循環に向けた取組み】

・「福井県SDGsパートナーシップ会議」に参画する企業・団体等は増え続けており、2024年3月末には1,099機関まで増加。

・パートナーと連携し、地球温暖化について楽しみながら学ぶボードゲームを作成し、**学生向けのSDGs体験プログラムを作成**。中学校で出前授業を行ったほか、学校に対し、校長会や教頭会を通じて活用を周知。

7. 今後の展開策

・「福井県SDGsパートナーシップ会議」に参画している企業・団体等のネットワークを生かし、企業・団体等の連携による地域課題解決に向けた取組みを促していくため、「福井県SDGsコーディネーター」（地域おこし協力隊）が企業・団体等の訪問調査等を行い、県内外企業とのマッチング支援やワークショップ開催により、交流の推進を行っていく。

8. 他地域への展開状況（普及効果）

・さいたま市と連携し、さいたま市主催のSDGsイベントにパートナーと参加し、活動内容をPR

SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

福井県

2024年9月

SDGs未来都市計画名	福井県SDGs未来都市計画
自治体SDGsモデル事業 又は特に注力する先導的取組	一次世代に選ばれる「しあわせ先進モデルふくい」の実現に向けて— —

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（1）計画タイトル

福井県SDGs未来都市計画 一次世代に選ばれる「しあわせ先進モデルふくい」の実現に向けてー

（2）2030年のあるべき姿

【自信と誇りのふくい】 豊かな自然風土や歴史・文化、地域社会のつながり、産業力などの「ふくいらしさ」を大切に守り、価値を高め、県民が誇りを持って暮らすことにより、さらに多くの人を呼び込む“ふくい”
【誰もが主役のふくい】 多様性を認め合い、誰もが様々なことに挑戦できる「全員参加型」の共生社会を築き、すべての人が幸せを実感しながら将来にわたって安心して暮らせる“ふくい”
【飛躍するふくい】 交通体系の進展や技術革新を最大限に活かし、新時代の基盤を確固たるものとするとともに、暮らしの質を高め、活力に満ちた“ふくい”

（3）2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
8働きがいも経済成長も 9産業と技術革新の基盤をつくろう	4質の高い教育をみんなに 11住み続けられるまちづくりを	7エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13気候変動に具体的な対策を

（4）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	1人当たり県民所得 【8.2,8.3】	2016年 316 万円	2021年 326 万円	2024年 356 万円	25%
2	製造業の1人当たり付加価値額 【9.5】	2017年 1,020 万円/人	2021年 1,065 万円/人	2024年 1,173 万円/人	29%
3	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合（小学校） 【4.7】	2019年 58.7 %	2023年 81.6 %	2024年 60.0 %	1762%
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合（中学校） 【4.7】	2019年 44.7 %	2023年 69.0 %	2024年 45.0 %	8100%
4	社会増減 【11.4,11.a】	2018年 △2,159 人	2023年 △2,607 人	2024年 社会増	－
5	嶺南地域においてVPPIに参加する箇所数 【7.2,7.3】	2019年 －	2023年 132 箇所	2024年 100 箇所	132%
6	温暖化対策を意識し節電等に積極的に取り組む県民の割合 【13.3】	2016年 29 %	2023年 データなし % ※2023年は調査を実施しないため	2024年 50 %	－

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

（５）「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

＜経済＞ ●指標１：「１人当たり県民所得」および指標２：「製造業の１人あたり付加価値額」 ・県内中小企業のDX推進の拠点となる「DXラボ」と支援機関が連携し、企業のDX推進を伴走支援しているほか、IT人材を育成する「ふくいITエンジニア養成スクール」を開講。産業の高付加価値化と人材育成を推進しており、目標達成に向けて概ね順調に進捗 ＜社会＞ ●指標３：「地域や社会を良くするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合」 ・児童生徒が自らの地域を研究し魅力を発信する『ふるさと福井CMコンテスト』や『ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会』の開催等を行った結果、大幅に数値が増加 ●指標４：「社会増減」 ・産学官連携による学生の県内就職を促進する取組みとして、県内大学の魅力向上や高校との連携強化による県内進学拡大のほか、県内大学・企業・市町・県が協働して地域の課題解決に取り組むPBL（プロジェクト型学習）や理系学生を対象とした県内企業見学ツアー等を実施した。また、移住サポーターを全ての市町に１人以上委嘱したり、移住支援金の子育て加算拡充などにより、新ふくい人（UIターン者数）は増加したものの（R5:1,361人、R4:1,229人）企業や大学の東京一極集中が続いており、若者の流出が止まらない。県内の産業人材の育成・確保を図るとともに、都市部における移住政策の強化を図っていく。 ＜環境＞ ●指標５：「嶺南地域におけるVPP参加箇所数」 ・嶺南市町のスマートエネルギーエリアの形成に向け、嶺南市町および電力事業者と連携し、EVを活用したVPPの実証実験を行う等の取組みの結果、参加箇所数が大幅に上昇。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

（1）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	①産学官の連携による地域人材の育成	新規就農者数	2014～2018累計 413人	2020～2021累計 361人	2020～2022累計 723人	2020～2023累計 843人	2020～2024累計 600人	230%
2	②「価値づくり産業」の創出	1人当たり県民所得	2016年 316万円	2019年 343万円	2020年 318万円	2021年 326万円	2024年 356万円	25%
3	②「価値づくり産業」の創出	製造業の1人当たり付加価値額	2017年 1,020万円/人	2019年 1,105万円/人	2020年 1,054万円/人	2021年 1,065万円/人	2024年 1,173万円/人	29%
4	③個性を引き出し、学びを楽しむ教育の推進	課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合（小学校）	2019年 80.5%	2021年 81.3%	2022年 79.7%	2023年 81.8%	2024年 85.0%	29%
	③個性を引き出し、学びを楽しむ教育の推進	課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合（中学校）	2019年 78.2%	2021年 81.5%	2022年 82.2%	2023年 83.8%	2024年 80.0%	311%
5	④関係人口の拡大	観光客入込数	2018年 1,697万人	2021年 1,236万人	2022年 1,520万人	2023年 1,760万人	2024年 2,000万人	21%
6	④関係人口の拡大	関係人口プロジェクト	2018年 172件	2021年 175件	2022年 212件	2023年 241件	2024年 210件	182%
7	⑤多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現	企業における女性管理職の割合	2018年 15.4%	2021年 20.0%	2022年 18.6%	2023年 17.2%	2024年 20.0%	39%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
8	⑤多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現	地域活性化に取り組む若者グループ数	2018年102グループ	2021年137グループ	2022年145グループ	2023年154グループ	2024年160グループ	90%
9	⑥ふくい発「健康文化」の創造	生活習慣病による死亡数（人口10万人当たり）	2017年185.8人	2020年177.0人	2021年177.6人	2022年180.3人	2024年162.0人	23%
10	⑥ふくい発「健康文化」の創造	フレイルチェック参加者数（延べ）	2018年498人	2021年2,242人	2022年3,044人	2023年3,850人	2023年5,000人	74%
11	⑦エネルギーと資源の循環型社会の構築	温暖化対策を意識し節電等に積極的に取り組む県民の割合	2016年29%	2022データ公表	2022年32%	2023年—% ※2023年は調査を実施しないため	2022年50%	—
12	⑧里山里海湖の保全・再生と活用	自然再生取組地域数	2018年9地域	2021年11地域	2022年12地域	2023年13地域	2024年14地域	80%
13	⑨地域を支え変化に挑戦する未来人材の育成	県内高校卒業生の県内大学進学率	2018年度卒35.8%	2021年度卒34.3%	2022年度卒36%	2023年度卒34.7%	2024年度卒40%	-26%
14	⑨地域を支え変化に挑戦する未来人材の育成	県内大学等の卒業生の県内就職内定率	2018年度卒60.6%	2021年度卒57.2%	2022年度卒56.6%	2023年度卒53.8%	2024年度卒65%	-155%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

・SDGs推進に向けた官民連携プラットフォーム「福井県SDGsパートナーシップ会議」には、企業、団体、教育機関、自治体など多様な主体が「ふくいSDGsパートナー」として参画しており、パートナー登録数は2023年度中に176機関増加して、1,099機関（2024年3月末現在）となった。

・「ふくいSDGsパートナー」企業・団体の取組みを見える化することで、県民のSDGsへの意識を高め、行動実践を促すため、福井県独自のSDGs月間を実施し、114件の取組みをPRするとともに、イベント来場者向けにSDGs商品のプレゼント企画を実施した。

・2023年9～10月、SDGsへの理解を深め、参加者同士の交流・対話の場となるワークショップを3回開催。カーボンニュートラルなど3つのテーマに沿って、約70名が参加し、活発な意見交換が行われた。

・2021年に、パートナー企業の中から有志を募り、福井の未来を担う人材育成に向けたプロジェクトを立ち上げ。2023年度は、地球温暖化について楽しく学ぶことができる「ふくい温暖化クイズボードゲーム」を作成・販売。完成したプログラムは3月に中学校で出前授業を行ったほか、小中学校に対し、校長会や教頭会を通じて活用を呼び掛けた。

・大学との連携も継続して実施。2024年2月には仁愛大学の「福井SDGs AWARDS 2023」に参加。ファイナリストによるプレゼン発表と表彰を行った。

・パートナー同士の連携・協働をさらに促進し、具体的な課題解決の取組みを加速度的に進めていくため、2023年に、3名の「福井県SDGsコーディネーター」（地域おこし協力隊）を配置し、企業・団体等への訪問調査を行い、マッチング支援やワークショップ開催による交流の促進を図った。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

（３）「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標１：「新規就農者数」
・園芸カレッジ開校以降、園芸関係の就農者が増加したことに加え、誘致活動や福井県の農業に関するPR強化などを実施してきた結果、目標値を大幅に越えて推移。
- 指標５：「観光客入込数」
・新型コロナウイルス感染症による旅行需要の低下により、２０２０年に観光入込数が大きく減少したが、２０２１年以降は毎年順調に回復してきている。さらに、２０２４年３月の北陸新幹線開業以降、来県者数が増加しており、今後も観光地や宿泊施設の磨き上げ、中部縦貫自動車道の県内開通に向けたさらなるプロモーションなど、誘客を強化していく。
- 指標７：「企業における女性管理職の割合」
・企業への抽出調査であるため、例年回答企業の業種によって数値のばらつきが発生。単年度で見ると前年度マイナスとなったが、３か年平均の推移で見ると増加している（H27-29：14.0%、H30-R2：15.9%、R3-5：18.6%）。2024年目標達成に向けては、引き続き働きやすい環境づくりを進めるとともに、今年度新たに創設した企業に対する「女性登用アワード」や、コンサルタントの派遣等を行うことにより、女性登用を加速させていく。
- 指標９：「生活習慣病による死亡数（人口10万人当たり）」
・当初値と比較して死亡数は減少しているものの、引き続き県民の生活習慣の改善が必要であり、市町と連携した「はびウォーク」により歩行を推進するとともに、「ふくい省塩プロジェクト」により県民への普及啓発や事業者等と連携した食環境整備を行うことなどにより、県民の健康づくりを後押ししていく。
- 指標10：「フレイルチェック参加者数（延べ）」
・目標値を下回った要因として、チェック会の開催件数は維持拡充できているものの新規参加者は増えておらず、リピーターの割合が増加していることが考えられる。未参加者へのアプローチとして、普段のチェック会の開催に加え、あらゆる世代への普及啓発を目的にショッピングセンターでのイベントや出前講座などを開催し、高齢者約1,200名/年のフレイルチェックを実施していく。
- 指標13：「県内高校卒業生の県内大学進学率」
・達成度がマイナスとなった要因として、県内高校生対象に行った進路選択に関する調査によると、「学部学科の不一致」や「他県へのあこがれ」などの理由が考えられる。対応策として、県内大学の模擬授業体験、県内大学での学びとそれが県内企業でどのように活かされているかを知るワークショップなどを行い、県内高校生に県内大学の魅力を感じてもらうことにより、県内大学への進学を促していく。
- 指標14：「県内大学等の卒業者の県内就職内定率」
・フスクエアキャリアナビセンターにおいて大学生等を対象とした就職相談窓口を設置している。県内外の大学生が利用する県内企業就職促進の拠点として、各大学への周知を強化する。

（４）有識者からの取組に対する評価

- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒（小学校、中学校）」の比率が急速に増加しているのは印象的である。パートナーシップ参加企業から具体的な人材育成プロジェクトが生まれていったというのは重要な展開であると思われる。
- ・2030年のあるべき姿は次世代に選ばれる「しあわせ先進モデルふくい」の実現である。県民所得向上事業は、経済情勢もありなかなか成果が出ないが、DX推進の拠点となる「DXラボ」の連携等により、企業のDX推進と体力を強化し、産業の高付加価値化と人材育成を推進してほしい。スマート農業にも期待したい。人口に関しては、人口減を受け入れ、交流型の活性化にシフトする時期でもあり、検討が不可欠である。

福井県 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年	2030年（目標値）	達成度 （%）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	1人当たり県民所得【8.2,8.3】	2016年 316 万円	2023年 326 万円	2024年 356 万円	25%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
2	製造業の1人当たり付加価値額【9.5】	2017年 1,020.0 万円/人	2023年 1,065 万円/人	2024年 1,173 万円/人	29%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
3	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合（小学校）【4.7】	2019年 58.7 %	2023年 81.6 %	2024年 60 %	1762%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合（中学校）【4.7】	2019年 44.7 %	2023年 69 %	2024年 45 %	8100%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
4	社会増減【11.4,11.a】	2018年 -2,159 人	2023年 -2,507 人	2024年 社会増	—	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
5	嶺南地域においてVPPIに参加する箇所数【7.2,7.3】	2019年 —	2023年 132 箇所	2024年 100 箇所	132%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
6	温暖化対策を意識し節電等に積極的に取り組む県民の割合【13.3】	2016年 29.0 %	2023年 データなし	2024年 50.0 %	—	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年 実績	2023年 目標値	達成度 （%）	第2期計画（または独自計画）の KPIへの反映状況
1	①産学官の連携による地域人材の育成	新規就農者数	2014～ 2018累 計 413 人	2020 ～ 2023 累計 843 人	2020 ～ 2024 累計 600 人	230%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
2	②「価値づくり産業」の創出	1人当たり県民所得	2016年 316 万円	2021年 326 万円	2024年 356 万円	25%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
3	②「価値づくり産業」の創出	製造業の1人当たり付加価値額	2017年 1,020 万円/人	2021年 1,065 万円/人	2024年 1,173 万円/人	29%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
4	③個性を引き出し、学びを楽しむ教育の推進	課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合（小学校）	2019年 80.5 %	2023年 81.8 %	2024年 85.0 %	29%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
5	③個性を引き出し、学びを楽しむ教育の推進	課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合（中学校）	2019年 78.2 %	2023年 83.8 %	2024年 80.0 %	311%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
6	④関係人口の拡大	観光客入込数	2018年 1,697 万人	2023年 1,760 万人	2024年 2,000 万人	21%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
7	④関係人口の拡大	関係人口プロジェクト	2018年 172 件	2023年 241 件	2024年 210 件	182%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
8	⑤多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現	企業における女性管理職の割合	2018年 15.4 %	2023年 17.2 %	2024年 20.0 %	39%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
9	⑤多様な価値観を認め合う「共生社会」の実現	地域活性化に取り組む若者グループ数	2018年 102 グループ	2023年 154 グループ	2024年 160 グループ	90%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
10	⑥ふくい発「健康文化」の創造	生活習慣病による死亡数（人口10万人当たり）	2017年 185.8 人	2022年 180.3 人	2024年 162.0 人	23%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
11	⑥ふくい発「健康文化」の創造	フレイルチェック参加者数（延べ）	2018年 498 人	2023年 3,850 人	2023年 5,000 人	74%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。

福井県 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

No	取組名	指標名	当初値	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
12	⑦エネルギーと資源の循環型社会の構築	温暖化対策を意識し節電等に積極的に取り組む県民の割合	2016年 29 %	2023年 — %	2022年 50 %	—	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
13	⑧里山里海湖の保全・再生と活用	自然再生取組地域数	2018年 9 地域	2023年 13 地域	2024年 14 地域	80%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
14	⑨地域を支え変化に挑戦する未来人材の育成	県内高校卒業生の県内大学進学率	2018年度卒 35.8 %	2023年度卒 34.7 %	2024年度卒 40 %	-26%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。
15	⑨地域を支え変化に挑戦する未来人材の育成	県内大学等の卒業生の県内就職内定率	2018年度卒 60.6 %	2023年度卒 53.8 %	2024年度卒 65 %	-155%	KPIは、2024年度中に行われる福井県長期ビジョン実行プランの改定後、整合性を合わせて再設定する。

（3）第1期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●特筆すべき事業内容 ●指標1：「新規就農者数」 ・園芸カレッジ開校以降、園芸関係の就農者が増加したことに加え、誘致活動や福井県の農業に関するPR強化などを実施してきた結果、目標値を大幅に越えて推移。 ●指標13：「県内高校卒業生の県内大学進学率」 ・達成度がマイナスとなった要因として、県内高校生対象に行った進路選択に関する調査によると、「学部学科の不一致」や「他県へのあこがれ」などの理由が考えられる。対応策として、県内大学の模擬授業体験、県内大学での学びとそれが県内企業でどのように活かされているかを知るワークショップなどを行い、県内高校生に県内大学の魅力を感じてもらうことにより、県内大学への進学を促していく。 ●指標14：「県内大学等の卒業生の県内就職内定率」 ・Fスクエアキャリアナビセンターにおいて大学生等を対象とした就職相談窓口を設置している。県内外の大学生が利用する県内企業就職促進の拠点として、各大学への周知を強化する。 ●成果 ・「福井県SDGsパートナーシップ会議」に参画する企業・団体等は増え続けており、2024年3月末には1,099機関まで増加。パートナーシップ会議に参画する金融機関等が、関わりのある企業・団体等に参画を呼び掛けているなど、県主導だけでなく参画機関の主体的な取り組みによる推進の輪が広がっている。 ・2021年に、パートナー企業の中から有志を募り、福井の未来を担う人材育成に向けたプロジェクトを立ち上げ。2021年は経済、2022年は社会、2023年は環境をテーマとし、学生向けのSDGs体験プログラムを作成。中学校や高校で出前授業を行ったほか、学校に対し、校長会や教頭会を通じて活用を周知。 ●課題 ・経済・社会・環境の三側面の取組みを進めた結果、KPIの達成状況として、県民所得等経済分野の指標は順調に推移しているが、中には当初値を下回る指標もあり、取組み強化の必要がある。 ●今後の展望 ・「福井県SDGsパートナーシップ会議」に参画している企業・団体等のネットワークを生かし、企業・団体等の連携による地域課題解決に向けた取組みを促していくため、「福井県SDGsコーディネーター」（地域おこし協力隊）が企業・団体等の訪問調査等を行い、県内外企業とのマッチング支援やワークショップ開催により、交流の推進を行っていく。

（4）有識者からの取組に対する評価

・新規就農者数が着実に増えているのは印象的である。 ・地域の課題を乗り越え、次の時代に新しい価値を創造していくことに挑戦する意気込みを掲げ、経済、社会、環境の好循環を構築し、各KPI達成に向けて事業を推進してほしい。
--